

開催までの活動について

7月 7日(月)【関係者会議①】

本事業の目的やプログラム案、課題等について話し合い、今後のスケジュールを確認した

9月12日(金)【関係者会議②】

プログラム案の詳細について共有し、準備物の確認、意見交換をした

10月 7日(火)【関係者会議③】

配布するチラシや当日の流れ等開催に向け詳細を確認した

11月22日(土)【大間町地域児童防災教室】

12月17日(水)【反省会】

当日の振り返りをし、次回に向けた検討事項を出し合った



「次はこれやって!」という子どもたちの弾んだ声と興味を大切に、来年度はさらに心躍るプログラムを企画します。こうした「楽しさ」を通じた学びを積み重ね、地域全体へ温かな防災の輪を広げていきたいです。

本パンフレットは、赤い羽根共同募金の助成を受けて作成しました。



自分の地域(まち)をすきになる
『福祉教育プラットフォーム』構築支援事業

令和7年度 活動報告

『大間町地域児童防災教室』



「大間町地域児童防災教室」

①実施目的

近年、自然災害が各地で頻発するなか、大間町子どもたちが「自分の命は自分で守る」正しい知識と行動力を身につけることを目的に開催しました。

子どもたちが楽しみながら学べる機会を設けることで、防災を身近に感じてもらうとともに、自分たちが暮らす地域の特徴や、住民同士で支え合う大切さを理解してほしいという願いを込めています。地域一丸となって防災意識を育む第一歩として実施いたしました。



②日時

令和7年11月22日(土)
13時00分～15時30分

③場所

大間町健康福祉センター スマイリー

④参加者数

小学生 12名 保護者・幼児 9名

⑤参画機関

- ・大間町役場 (防災担当・教育委員会・栄養士)
- ・大間消防署
- ・大間町社会福祉協議会
- ・青森県社会福祉協議会



担当者(大間町社会福祉協議会:浅見日和さん)からの声①

「よかったこと、大変だったこと」

準備にあたっては関係機関の協力が非常に心強く、各所の想いが反映された企画をスムーズに進められたことが大きな成果です。参加した小学生から「楽しかった」との声を多くいただき、今後の活動への自信に繋がりました。また、幼児まで対象を広げたことで、楽しそうに参加する姿が見られたのも良い判断でした。

今後の課題としては、以下の点が挙げられます。

- ・寒冷期の開催となり、屋外プログラムが天候に左右されやすかった点
- ・全学年同一内容のため、年齢差に応じた配慮が十分でなかった点
- ・広報不足により定員に達せず、周知方法の改善が必要な点

これらの教訓を活かし、今後はより効果的な運営と周知を目指します。



3回実施した関係者会議



安全への配慮も



防災クッキング
(蒸しパン作り)



防災クイズ



段ボールベッド体験



備蓄倉庫見学



消火体験(ジェットシューター)



車いす体験

担当者からの声②

「今後に向けて」



今回の成果と課題を踏まえ、来年度以降も年に1度のペースで防災教室を継続していきたいと考えています。今後は小学生に加え幼児も対象とし、年齢や発達段階に応じた工夫を凝らすことで、より多くの子どもたちが無理なく学べる機会になるよう企画したいです。

また、地域の関係機関や団体との連携をさらに広げ、専門性を活かした実践的なプログラムを構築します。何よりも、楽しみながら防災を学ぶことで「自分たちの住む大間町」をより深く知り、地域への愛着を育む場であり続けたいと考えています。将来にわたって、自分と大切な周囲の人の命を守る力を、この町で共に育んでいくことを目指します。

